

漢方の基本的な考え方

漢方医学の基本構造

漢方医学を特徴づけるものの第一は“気”の概念と“陰陽論”であり、第二には治療薬剤として“漢方方剤”を用いることであると寺澤先生は述べています。詳細は成書を紐解いていただければと思いますが、ここで“気”について少し紹介します。



「気」の概念

「気」とは地球環境に普遍的に存在する目に見えないエネルギーで、生命活動を営むすべての生物は気が閉鎖空間を形成したものと考えられています。この気の世界は、たとえば天気、空気、電気、生気、病気などの言葉としても、私たちの日常生活に根ざしています。気は人間を人間として存在させている基本的要素で、心の働きも、身体の構造と機能もすべて“気”によって支えられていると考えます。心と身体を分けてとらえない考え方を“心身一如”と呼び、心身医学の基本として、医療哲学としても重要な部分です。

漢方医学では、生体の変調を気の量あるいは流通の障害としてとらえています。この気の変調を気うつ、気逆、気虚に区分しています(表)。

◆気の変調とその症状

- 気うつ：気の閉塞(停滞)している状態
症状は、咽喉の異常感覚(詰まる、つかえるなど)、
胸が詰まる・重苦しい、腹部の閉塞(イレウス・放屁)など。
- 気逆：気が上昇(逆流)している状態
いわゆるのぼせ症状。緊張したり熱いものを食べると
赤くのぼせる運動型と、いつも赤くのぼせている固定型がある。
- 気虚：生命活動の衰え
だるい、疲れる、気力が出ない、食欲がないなどが主な症状。